

上越地方の積雪、2012 冬

○横山宏太郎・小南靖弘（中央農研北陸）

はじめに

北陸研究センターでは、積雪の分布と変動を知るため、新潟県上越地方を中心に積雪調査を継続的に実施してきた。近年、暖冬傾向の続く中で、2006 冬は記録的豪雪であったが、2007 冬は逆に記録的少雪と両極端の状況が連続して起こった¹⁾。2010 冬、2011 冬と比較的雪の多い冬に続いて、2012 冬は記録的な豪雪となった。高田測候所（現在は特別地域気象観測所）でも、1986 冬（324cm）以来 26 年ぶりに積雪深が 2 m を越えた（222cm）。ここではその状況を、特に 2006 冬と比較しながら報告する。

方法と調査結果

各地点で神室型サンプラーを用いて全層の積雪を採取計測し、積雪深、積雪相当水量、全層平均密度を得る。定期的な調査地点は 35 地点である。調査は毎年 3 回、時期は 1 月・2 月・3 月の下旬を基本として行っている。定期的な調査以外にも、特に融雪期に、機会があれば調査を行うよう務めている。

図 1 は、平野部から南方へ向かい、さらに妙高山中腹までの積雪相当水量の調査結果である。調査地点を標高順に並べ、各地点ごとの 1, 2, 3 月の値を、2006 冬と 2012 冬とを一对にして示している。

積雪相当水量は低地から標高が高くなるに従って増加していくが、580m で極大があり、それより上も単純に増加しているわけではない。2006 冬と 2012 冬を比べると、標高 710m 地点よりも低いところでは、2012 冬がやや多めになっている。それよりも高いところは妙高山東斜面であるが、特に 1350m、1540m の 2 地点では、2012 冬が明らかに少ない。2012 冬は、高田平野から東の中山間地域でも積雪は多かった。総じて住民の生活する範囲での降積雪が多く、各方面への影響は大きかった。融雪の遅れも懸念されており、これからの状況も注意しておきたい。

参考文献 1) 横山ほか（2007）上越地方の山地積雪、2006 冬と 2007 冬、雪氷北信越 27、p69

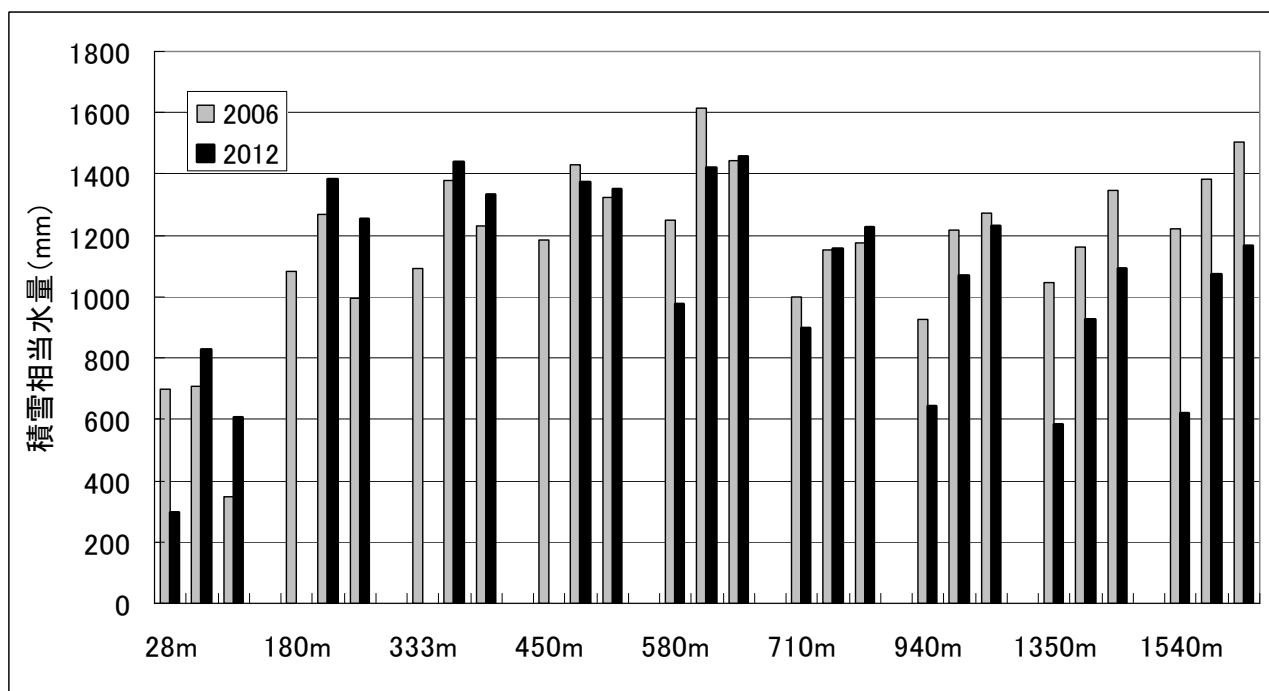


図 1 標高別の積雪相当水量 (mm)。横軸のラベルは調査地点の標高。各地点、2006 冬、2012 冬それぞれ、左から 1, 2, 3 月下旬の結果を示す。